

NIID National Institute of Infectious Diseases | Infectious Disease Surveillance Center

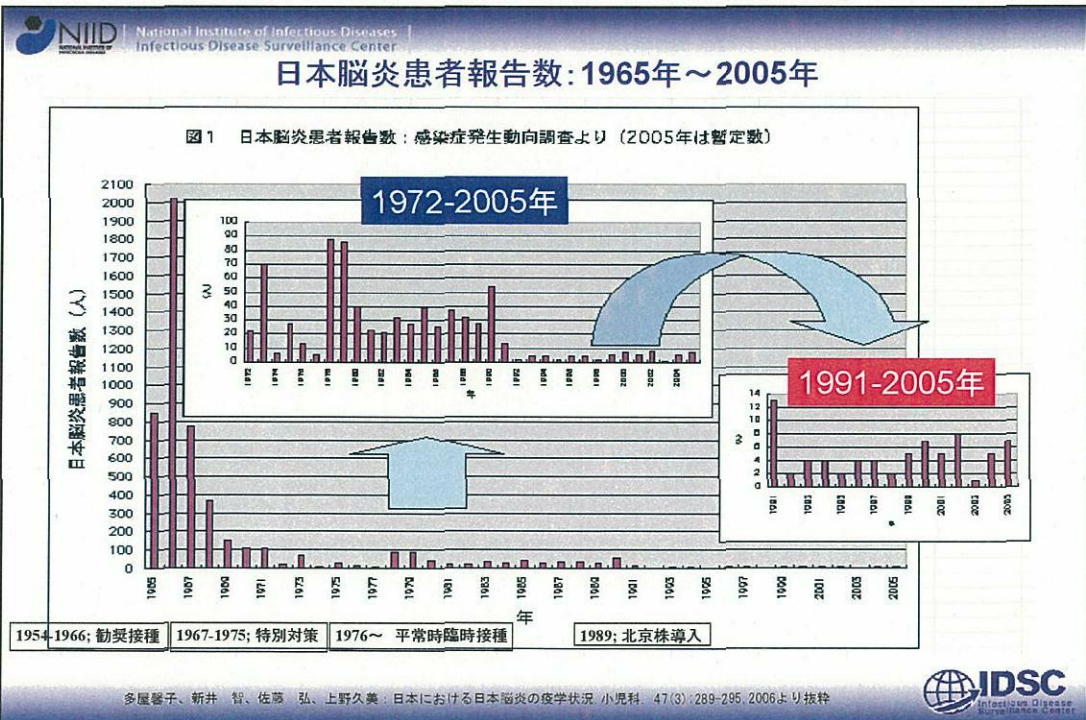
第17回予防接種に関する検討会

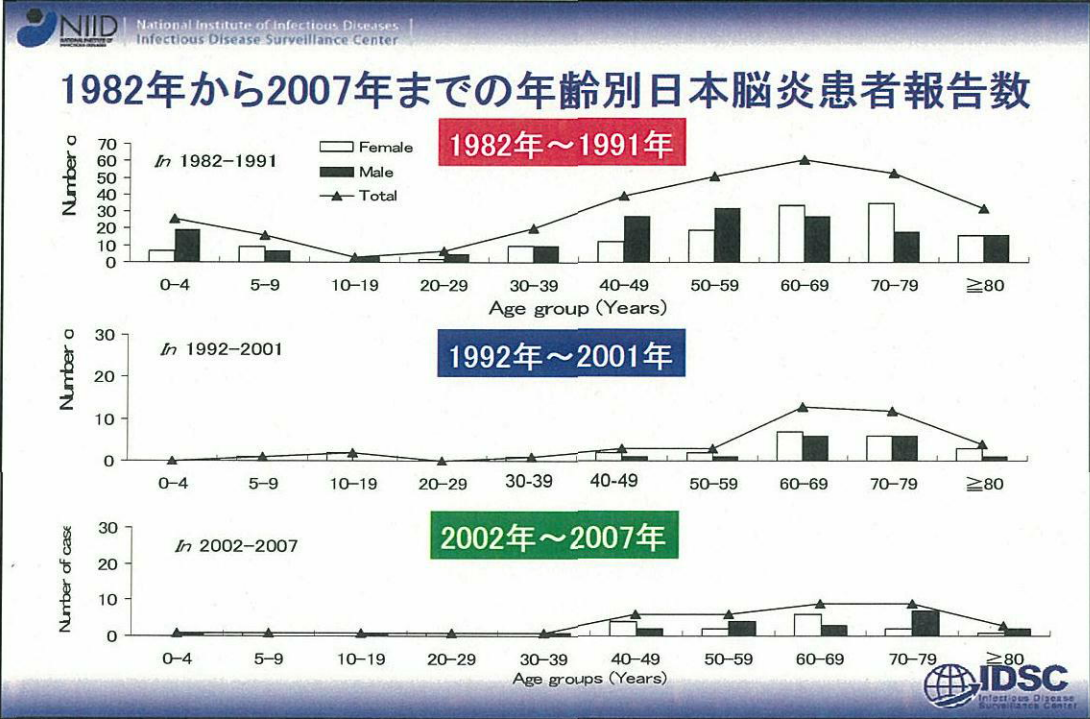
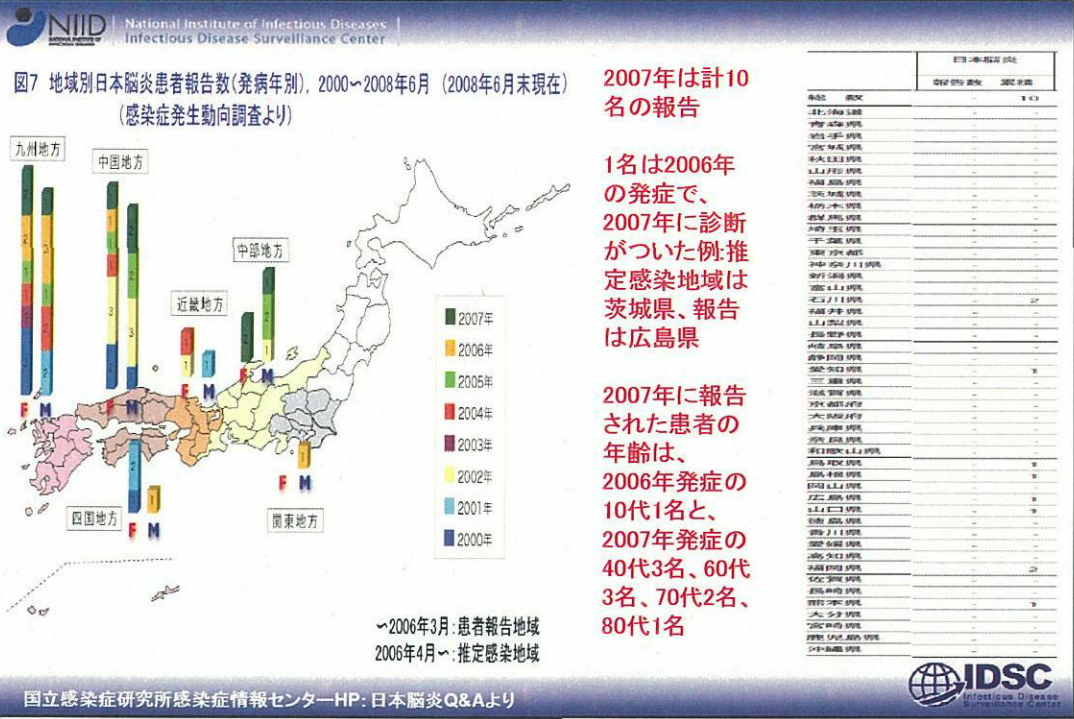
平成20年7月25日(金)10:00-12:00
厚生労働省 18階 第9会議室

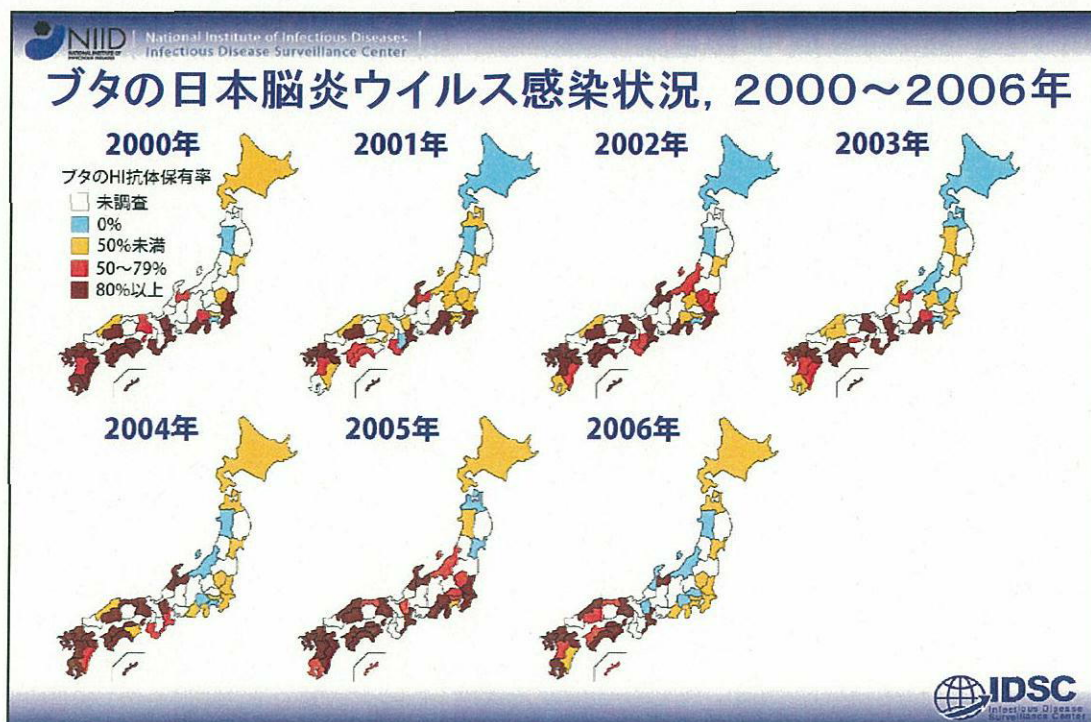
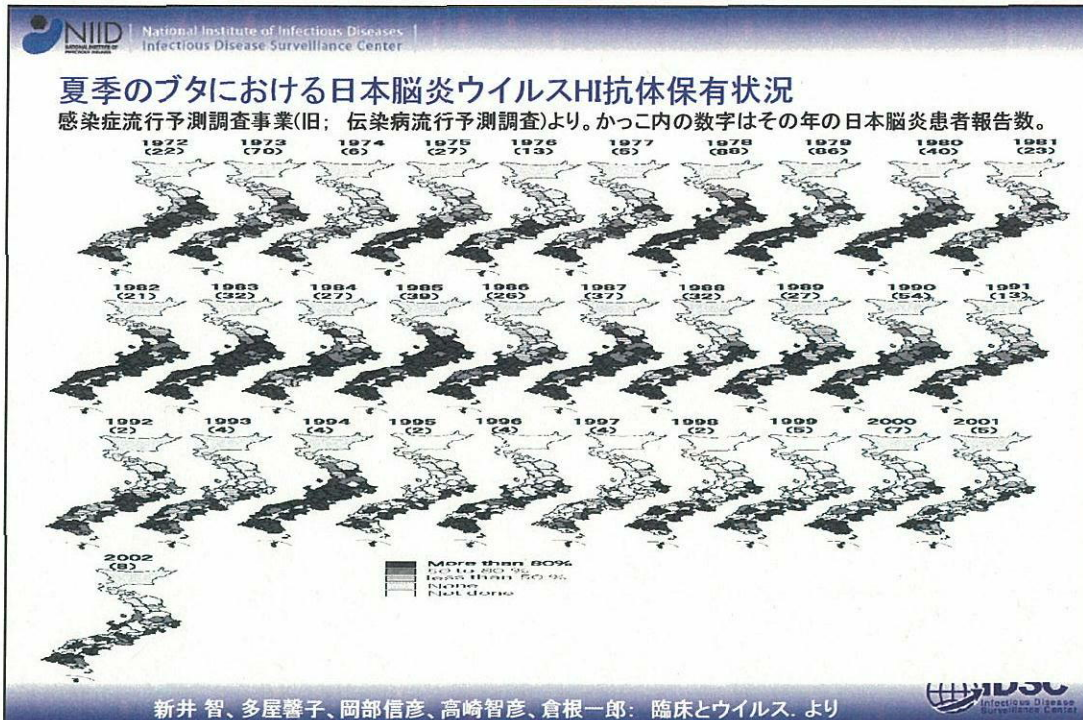
国内の日本脳炎関連疫学情報

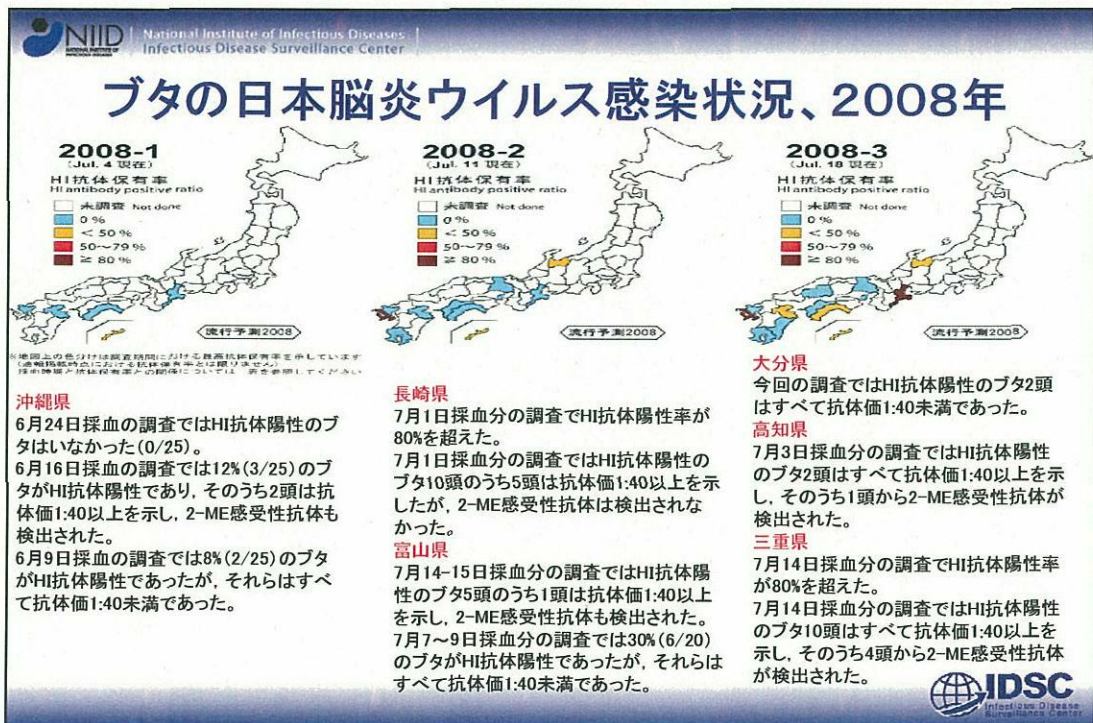
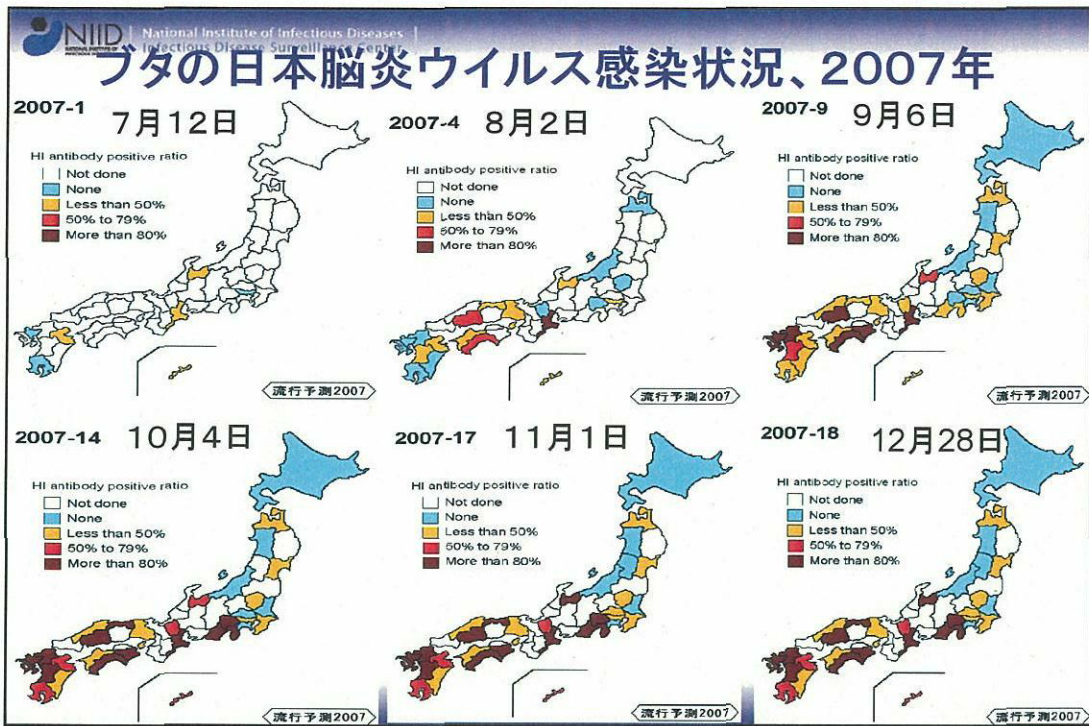
国立感染症研究所 感染症情報センター
多屋馨子、佐藤 弘、新井 智、多田有希、岡部信彦

IDSC Infectious Disease Surveillance Center









NIID National Institute of Infectious Diseases | Infectious Disease Surveillance Center

日本脳炎ワクチン接種スケジュール

日本の定期/任意予防接種スケジュール(2008年4月1日施行) 2008年4月現在

日本の定期/任意予防接種スケジュール2005年(4/1~7/28)

2005/5/30
積極的
勧奨の
差し控え
2005/7/29
第3期の
中止

積極的勧奨の差し控えと、第3期の中止

IDSC Infectious Disease Surveillance Center

NIID National Institute of Infectious Diseases | Infectious Disease Surveillance Center

日本脳炎ワクチンと急性散在性脳脊髄炎(ADEM)

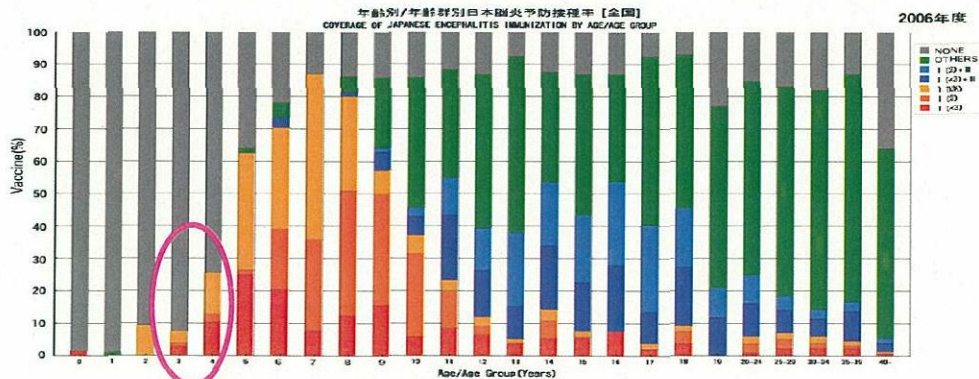
- 平成15~16年の全国調査(回収率60.2%)で、
 - ADEMと報告された15歳以下の患者101名の内、発症1か月以前にワクチン接種歴があったもの(先行感染ありを含む)は約15%(15名)
 - ワクチン接種歴があったもの内、日本脳炎ワクチン後の報告は約25%(4名)。(平成17年度厚生労働科学研究『小児の急性散在性脳脊髄炎の疫学に関する研究(宮崎、多屋、岡部ら)』)
- 因果関係は明らかにはされていないものの、予防接種後副反応報告として報告されたADEMは、平成6年度から平成18年度までの13年間に21件(厚生労働省)
 - 年齢分布は、3~7歳(初回接種)で14件
 - 10歳(2期接種)で1件、
 - 14~15歳(3期接種)で6件。
- 健康被害認定者数は、平成元年~平成19年3月までに16件(厚生労働省)
 - 年齢分布は、3~7歳(初回接種)で10件
 - 14~15歳(3期接種)で6件
- 定期予防接種を受けた人数
 - 初回接種(生後6~90か月未満、標準的な接種年齢:3歳で2回、4歳で1回):約280万人/年
 - 2期接種(9~13歳未満、標準的な接種年齢9歳):約80万人/年
 - 3期接種(14~15歳、標準的な接種年齢14歳):約60万人/年

IDSC Infectious Disease Surveillance Center

急性散在性脳脊髄炎 (ADEM)

- わが国における15歳以下のADEMおよびその周辺疾患(多発性硬化症を除く)の発症頻度は年間約60例程度、15歳以下の小児人口10万人あたり年間0.32であると推計されています。
- 平成17年度厚生労働科学研究『小児の急性散在性脳脊髄炎の疫学に関する研究(宮崎、多屋、岡部ら)』によるADEM発症の平均年齢は6歳11か月でした。
- また、宮崎らによる94~95年,99~01年,01~02年におけるAND (acute neurological diseases: 小児急性神経系疾患)調査では、国内約10地域より59例のADEM(ほとんどは原因不明)の報告があり、発症のピークは6歳前後で、全治19%、軽快66%で死亡例はなかったと報告されています。

年齢別/年齢群別日本脳炎予防接種率, 2006年 (2007年4月現在暫定値)



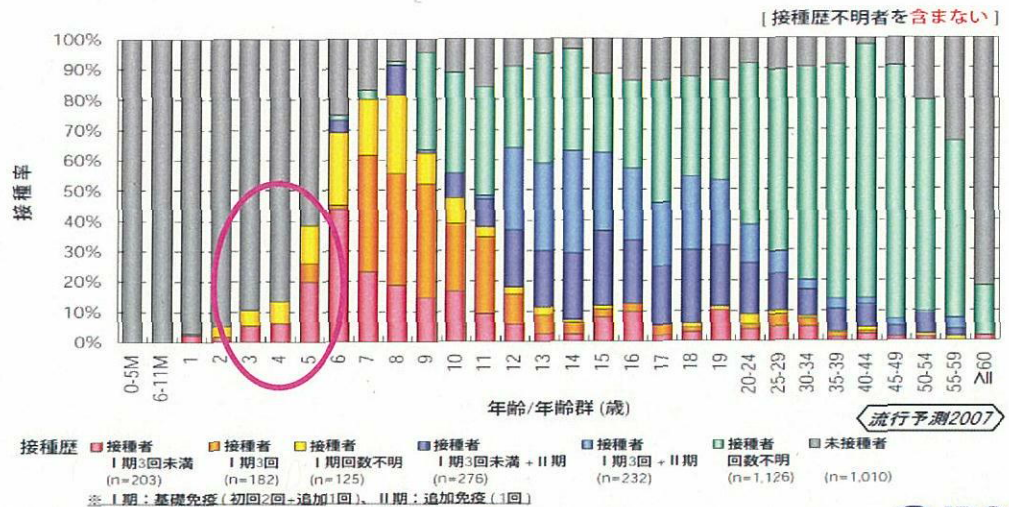
2005年5月30日の、厚生労働省による日本脳炎ワクチン積極的勧奨の差し控え以降、3~4歳での日本脳炎ワクチンの接種率が激減しました(接種例不明は除く) 流行予測 2006



3-4歳の抗体保有率が低下

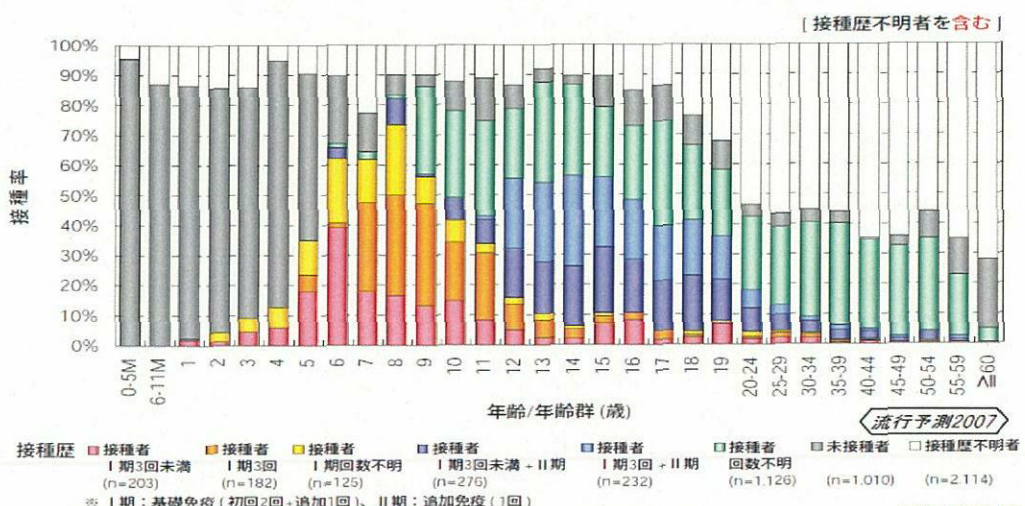
年齢/年齢群別 日本脳炎予防接種状況

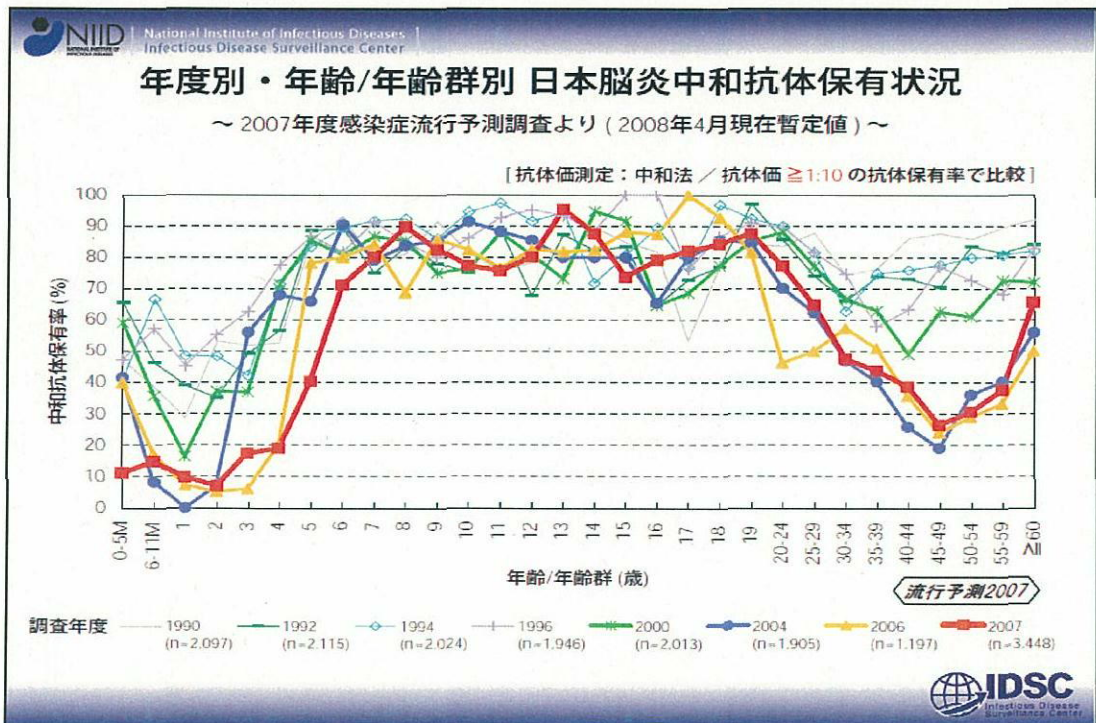
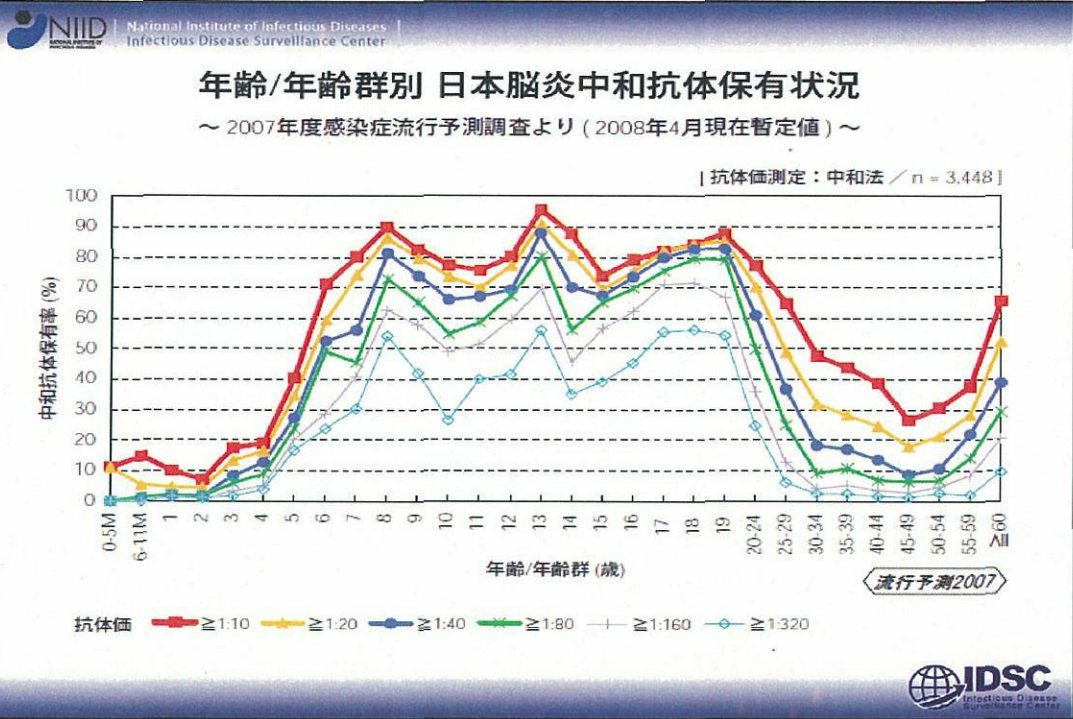
～ 2007年度感染症流行予測調査より (2008年4月現在暫定値) ～



年齢/年齢群別 日本脳炎予防接種状況

～ 2007年度感染症流行予測調査より (2008年4月現在暫定値) ～





まとめ 患者発生状況

- ・ 日本脳炎ウイルスに感染後の発病率は、100～1000人に1人程度と考えられています。しかしいったん脳炎症状を起こすと、致死率は20～40%前後と高く、回復しても半数程度の方は重度の後遺症が残ります。
- ・ わが国の日本脳炎患者発生数は、ワクチン接種の推進、媒介蚊に刺される機会の減少、生活環境の変化等により、その数は著しく減少し、近年では、年間数名程度の発生にとどまっています。
- ・ 年齢分布も年少児と高齢者を中心とした発生から、高齢者を中心とした分布に変化しています。

まとめ ブタの感染状況

- ・ 日本脳炎ウイルスの保有動物であるブタにおける感染状況(日本脳炎ウイルスに対する免疫(抗体)保有率-感染症流行予測調査より-)をみると、西日本を中心に毎年広い地域で抗体陽性のブタが確認されています。つまり、まだ国内では、西日本を中心に日本脳炎ウイルスに感染しているブタが多数存在することになります。
- ・ ブタが日本脳炎ウイルスの感染を受け始める時期は、6～7月頃に、九州、中国、四国地方から始まり、8～9月にかけてその地域が広がっていきます。

まとめ 予防接種とヒトの抗体保有状況

- ・ 日本脳炎ワクチン接種後重症ADEM患者発生に伴い、2005年5月30日に、厚生労働省による日本脳炎ワクチン積極的勧奨の差し控え以降、3～4歳での日本脳炎ワクチンの接種率が激減しました。
- ・ その結果、2006年度の調査では、ヒトの日本脳炎に対する抗体保有状況は3-4歳群で、2007年度の調査では、3-5歳群でこれまでにない低い割合になっています。